

第 13 期栃木県生涯学習審議会第 6 回会議 議事録

開催日時：令和 3 (2021) 年 6 月 22 日 (火) 13 時 30 分から 15 時 30 分

開催場所：栃木県公館大会議室

出席委員：笹原委員、草野委員、石川委員、早川委員、黒川委員、川井委員、富田委員、伊吹委員、浪花委員、狩野委員、中村委員、竹内委員、宮地委員 (13 名)

欠席委員：塩澤委員、粉川委員、加藤委員、風間委員、生井委員、内藤委員、和田委員 (7 名)

- 1 開会
- 2 辞令交付
- 3 あいさつ 荒川教育長
- 4 議事 進行 会長

(1) 「栃木県生涯学習推進計画五期計画」に係る県関連事業の取組結果について

(会長)

- ・「栃木県生涯学習推進計画五期計画」に係る県関連事業の取組結果について、事務局から説明願いたい。

(事務局)

- ・「栃木県生涯学習推進計画五期計画」に係る県関連事業の取組結果について説明。

(会長)

- ・ただ今、事務局から説明のあった「栃木県生涯学習推進計画五期計画」に係る県関連事業の取組結果について御意見を伺いたい。

(委員)

- ・県関連事業の評価については、実施した内容のみの記載が多いが、評価というためには、単に「何をした」という記述ではなく、良かったのかどうか、どれだけ効果があったのかなど、受け手側の評価や事業全体の効果を含めて記入すべき。
- ・県関連事業一覧では、200 以上の事業が列挙されており、例えば、子どもの職業観を育成するような事業と就職や職業訓練を扱う事業が並列に掲げられている。生涯学習の目指す学びや人生を豊かにする体験等を扱う事業と、そうした効果は副次的であり、第一の目的は別なところにある事業については、並列して掲げるのではなく、扱いに差を付けた方がよいのではないか。

(2) 「栃木県生涯学習推進計画 (六期計画)」の概要と県関連事業の状況について

(会長)

- ・「栃木県生涯学習推進計画 (六期計画)」の概要と県関連事業の状況について、事務局から説明

願いたい。

(事務局)

- ・「栃木県生涯学習推進計画（六期計画）」の概要と県関連事業の状況について説明。

(会長)

- ・今年4月から、県関連事業を中心に六期計画の具現化を進め始めたが、その展開に関する希望等について、各委員の立場から御意見を伺いたい。

(委員)

- ・障害者や障害に関する理解を促進し、障害者の学習機会の充実にに向けた環境づくりを進めるとしているが、どういった人を対象と考えているか。また、障害者の学習支援に、県としてどう関わっていく予定か具体的に伺いたい。

(事務局)

- ・障害者や障害に対する理解の促進については、一般の人を対象とした講座の開設を予定している。また、障害者の学習機会については、障害の有無に関わらず、同じように楽しむことのできる講座の開設を公民館等に依頼する予定である。

(委員)

- ・地域のコミュニティセンター所長という立場で、地域で活躍する人々の担い手不足が課題だと感じている。そういった視点で六期計画の県関連事業を見ると、「高校生のキャリア形成支援事業」や「とちぎの高校生じぶん未来学推進事業」はよい取組で、高校生時代から自分の将来を考えるだけでなく、地域でできることに目を向けるきっかけになると思われる。
- ・六期計画では、企業の従業員が地域とのつながりをもつための機会を創出するとあるが、具体的にはどのような施策があるか伺いたい。また、県や市町の職員については、現職のうちから地域への関心を高めるための方策を講じてほしいと考える。

(事務局)

- ・企業における地域への理解については、「とちぎ県民カレッジ」や「とちぎ子どもの未来創造大学」において、各企業の協力により子どもを含めた県民向けの講座を展開している。また、地域で活躍する人の担い手不足は県でも課題であると捉え、六期計画では、家庭教育や人権教育等、指導者の養成について指標化している。
- ・県職員の地域とのつながりについては、個人の調書に地域活動を記入する欄を設けるなどして、地域活動に目を向けられるようにしている。

(委員)

- ・現在、学校現場では、配慮を要する特性をもった児童生徒が多く、幼少期からお互いのよさを

認め合い、誰もが安心して生活できるようにするための環境づくりを進めているが、「親学習プログラム」等で専門的な話を聞ける機会を設定するなど、保護者の学びも必要であると感じている。

- ・ICTの活用については、不登校児童生徒の救済等につながるよさがある反面、SNSによる誹謗中傷や引きこもり等も問題視されているので、学校現場においても、今後、コミュニケーションの取り方を指導していく必要性を感じている。

(委員)

- ・地域で「親学習プログラム」を実践している。令和2年度はグループでの話し合い等が困難な状況であったが、模造紙と付箋を活用するなど、状況に応じて実施してきた。子育てについての悩みをもっている保護者にとって、気付きを得るとともにネットワークづくりにもなるこのプログラムは、今後も県の事業として継続してほしいと考えている。

(委員)

- ・とちぎ健康福祉協会では、県からの委託を受けてシルバー大学校を運営しているが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休校期間が長かった。今年度は、4月から授業を再開しているが、高齢の学生はオンライン希望者が少ないため、クラスを分けるなど工夫しながら対面の授業等を実施している。クラブ活動や学校祭は制限を設けて実施予定である。

(委員)

- ・今年3月まで、地域包括支援センターで栃木市社会福祉協議会とともに地域づくりを行ってきた。旧岩舟地区では、小学校区ごとに地域の方も関わる協議体を形成し、自分たちの地区の誇りや課題などを確認し、地域をよくするための課題について協議してきた。しかし、協議体やボランティア等に関わっている方々の多くは高齢化しており、世代交代も課題となっている。また、現在、栃木市では「とちぎ未来アシストネット事業」を展開し、学校・家庭・地域の連携を図ることとしているが、地域コーディネーターや学校支援ボランティアについても担い手不足を感じている。
- ・地域コーディネーターの養成については、今後の課題であると考えているので、県でもぜひ養成を進めてほしい。

(委員)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響か、スマートフォンでのやりとりが増えた反面、親同士の会話が減少傾向にあることで、周りへの気遣いが不足しがちではないかと危惧する学校から相談を受け、「思いやり」をテーマにして親子を対象に授業を実施した。
- ・地域コーディネーターの活動をする際、相談できる仲間をつくり、ボランティアでの対応が難しいときは社会福祉協議会や市役所等をとおして専門家に依頼することも想定しておくなど、悩みを一人で抱え込まないことが大切であるので、その旨、コーディネーター養成講座等で説明に加えてもらうことを望む。

(委員)

- ・昨年度は中止にした市民芸術祭を今年度は実施し、市民の活躍の場を設定することの重要性を改めて感じた。
- ・ICTの活用により、これまで情報が届かなかった人にも情報が広がりつつあると感じている。
- ・県の事業では、指導者の養成講座等を多く設定しているので、修了者が活躍できる場の設定についても併せてお願いしたい。

(委員)

- ・幼少期の学習は、その後の人間形成において重要である。本県の文化施設は年3回無料開放しているが、欧州や米国は週末毎に無料開放しているため、子どもがよいものに触れ、五感を研ぎ澄ますための環境が整備されている。本県でも同様の取組ができるよう予算要望をしていきたいと考える。

(委員)

- ・コロナ禍で授業形態がかなり変わり、学生の検温や教室の除菌作業に係る職員の労力が大きい。
- ・オンライン授業も取り入れてきたが、IT関係者が職場にいても、形が整うまでには時間がかかった。小・中学校の授業でICTを効果的に活用するためには、教職員への支援が必要であると感じるので、民間からの支援や、県での予算措置等があるとよいのではないかと考える。

(委員)

- ・今年4月に高年齢者雇用安定法が改正になり、70歳定年が企業の努力義務とされた。職業能力開発と生涯学習は車の両輪に例えられ、個人がどちらに比重を置くかは人それぞれであるが、切り離して考えることは困難であろう。
- ・六期計画の県関連事業については、趣味的なものや障害者支援を扱ったもの、さらに就業に関する事業等が含まれるのもやむを得ないと思われるが、体系図のようなまとめ方になっていると全体のつながりが把握しやすいと考える。

(委員)

- ・オリンピックが目前に迫った現在、新型コロナウイルス感染症への対策については、各委員もそれぞれの職場で尽力されていることに医師会として敬意を表す。
- ・本審議会の委員は指導者という立場の方が多く、最近、教育の現場でも授業や研修等で多く取り入れられているリモートのメリットとデメリットは把握していると推察するが、日本医師会や厚生労働省でも、リモートによる診療等を検討し、医療の教育についてもeラーニングのコンテンツを充実させていくこととしている。リモートは時代に応じた手法であるので、今後、指導者がリモートを習熟し、対面と併せた活用が求められる時代になったと感じている。
- ・現在は、鬱になる人が以前の2.2倍になっていることから、必要以上に落ち込まなくてもよいというメッセージを発信していく必要性を感じている。

(委員)

- ・これまでの会議で各委員から出された意見が六期計画には反映され、生涯学習に関連する事業が展開されていくと思われるので、今後、我々も生涯学習に関わっていくことの必要性を感じている。
- ・大人も子どもも高齢者も障害者も生涯学習をする権利があるので、ぜひたくさんの方に生涯学習としていろいろなことに参加してほしいと考える。
- ・事業によっては参加人数では評価できないものがあるという意見があったように、参加人数は目標であっても目的ではないので、事業を展開していく際の参考にしてほしいと考える。

(委員)

- ・シルバー大学校では、歴史研究というクラブ活動が大変人気で、高齢者は地域の歴史に関心の高い人が多いと感じている。六期計画の中で、歴史に関する県関連事業があれば伺いたい。

(事務局)

- ・「とちぎ子どもの未来創造大学」や「とちぎ県民カレッジ」で、歴史に関する講座等を開催している。今後も、子どもから大人まで楽しめる講座を提供していけたらと考えている。

(委員)

- ・六期計画の特徴の一つとして「学校と地域の連携協働の推進」があるが、学校ではこの2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA総会を紙面開催で実施するなど、これまでの形態を変えることで実施してきた。
- ・コロナ禍以降、楽な形態に染まることなく、学校と家庭、地域が一体となって生涯学習を推進するため、本当に必要なものは何かを取捨選択しながら考え直す機会であると感じている。さらに、県の関連事業についても、地域に根ざした活動につながるよう、今一度、内容を考え直すチャンスであるとする。

(会長)

- ・各委員から、それぞれの立場で専門的且つ横断的な御意見や御指摘を数多くいただいた。本日、審議会でも出された意見は、今後、栃木県生涯学習推進計画（六期計画）を展開していく上で生かしてほしい。

(3) その他

(会長)

- ・(3)その他について、各委員から何かあるか。

(各委員)

- ・特になし

(会長)

- ・以上で議事を終了する。委員の皆様の御協力により円滑に進めることができた。それでは進行を事務局にお返しする。

5 その他

6 閉会